

## 花の名前を調べよう ～菅平高原の花を例にして～

長野県上田市菅平高原では、ツキヌキソウやキキョウなどの珍しい花をもつ植物が生息しています。今回は、菅平に生息する花の名前を調べてみましょう。花をもつ植物は、花の色や形だけでなく、葉の形や茎からの葉の出方などの多くの特徴をもっています。これらの特徴と同じ特徴をもつ植物を探すことで、その植物の名前を見分けることができます。

### 【ワーク】

菅平高原を歩いていると、花をもつ植物（図1）を見つけました。同じ花の色をした植物を調べ、この花の名前がマツムシソウ・ツリガネニンジン・キキョウ・アヤメのどれかだろうと考えました。名前を調べるにはもう少し情報が必要です。



図1 見つけた植物の写真

- 1 図1を観察しながら、植物の特徴（花の色・花の形・葉の付き方）をまとめた以下の表を埋めましょう。

特徴の種類	見つけた植物の特徴
花の色	
花の形	花びらが根元でくっついている。また、花の先が5つに分かれている。（これを「五裂」という。）
葉の付き方 <u>（『この花なみに？』 p.4 参照）</u>	または

- 2 以下の表は、マツムシソウ・ツリガネニンジン・キキョウ・アヤメのそれぞれの特徴をまとめています。『この花なみに？』を参考にしながら、表を埋めましょう。わからないところは空白のまま大丈夫です。

	マツムシソウ	ツリガネニンジン	キキョウ	アヤメ
花の色				
花の形				
葉の付き方				

3 1と2で作成した表を参考にして、図1の植物の名前を書きましょう。また、それを選んだ理由を書きましょう。

図1の植物の名前

それを選んだ理由

4 1と2で作成した表を参考にして、図1の植物が、3で選んだ植物ではない理由を書きましょう。

Hint: 図1の植物の特徴のうち、何が一致していないのかを書きましょう。

**【もっと学びたい人へ】**

菅平の植物だけでなく、身近な植物も同じように名前を調べることができます。日浦勇著『自然観察入門』(中公新書)では、身近な自然を観察する方法をとってもわかりやすくまとめているため、おすすめです。

**【参考文献】**

筑波大学菅平高原実験センター(2015) 『筑波大学 菅平高原実験センター ススキ草原 この花なあに?』  
菅平ナチュラルリストの会  
日浦勇(1975) 『自然観察入門』 中央公論新社

【解答例】

1

特徴の種類	見つけた植物の特徴
花の色	紫色。
花の形	花びらが根元でくっついている。また、花の先が5つに分かれている。 (これを「五裂」という。)
葉の付き方 <u>(『この花なみに?』 p.4 参照)</u>	互生または根生。

2

	マツムシソウ	ツリガネニンジン	キキョウ	アヤメ
花の色	薄紫色。	淡紫色。	紫色。	紫色。
花の形	外周の花弁は大きく5裂の舌状花、内側の花弁は小型、中心は筒状花。	5裂の鐘形。	先が五裂に大きく開いた釣鐘形。	6枚の花びらがある。
葉の付き方	対生。	輪生。	互生。	

3

図1の植物の名前

キキョウ

それを選んだ理由

図1の植物の花の色、花の形、葉の付き方が、キキョウと一致するため。

マツムシソウではない理由

図1の植物の花の形と葉の付き方が、マツムシソウと一致しないから。

ツリガネニンジンではない理由

図1の植物の葉の付き方が、マツムシソウと一致しないから。

アヤマではある理由

図1の植物の花の形と葉の付き方が、マツムシソウと一致しないから。

【補足】 ～図鑑って本当に正しい？～

同じ植物でも、図鑑によって違う特徴が書いてあることがあります。例えば、『この花なあと？』を見ると、キキョウの葉の付き方は「互生」と書いてあります。ところが、『改訂新版 日本の野生植物 5』では、「互生、ときに対生または輪生」とあります。

図2は、菅平高原のキキョウの標本です。これを見ると、確かに互生もあれば、対生もあるようです。

このように、図鑑に書いてある情報は必ずしも正しいとは限りません。そのため、一つの図鑑だけを信じるのではなく、できるだけ複数の図鑑を使って観察することをおすすめします。



図2 キキョウの標本

【参考文献】

大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(2017) 『改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科』 平凡社

筑波大学菅平高原実験センター(2015) 『筑波大学 菅平高原実験センター ススキ草原 この花なあと？』  
菅平ナチュラルリストの会

日浦勇(1975) 『自然観察入門』 中央公論新社